

Yamakado News Letter



2018年もどうぞよろしくお祈いします



守護岩で乾杯 2018.1.1 Photo By Fujimoto

2018年が明け、今年も守護岩詣から活動がスタート。会員9名が参加し、10時過ぎに楽舎を出発。1時間半ほどかけて守護岩を目指しました。山頂付近の積雪は65cm。すっぽりと雪に埋まった守護岩を掘り出してしめ縄を新調。今年一年の保全活動の進展と安全を祈願しました。

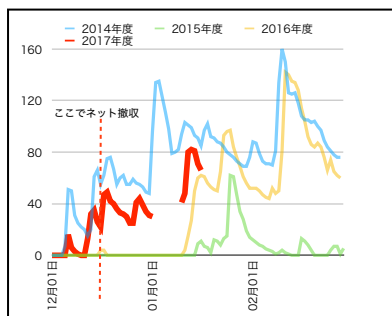
雪害に備えました。ところが、その後には積雪はあまり増えず。そんなことで、防獣ネットで囲っていた区画では雪が溶けて地面の露出面が増え、シカの進入が心配される状態が続きました。定期的にパトロールを行っていますが、幸いにして今のところ目立った獣害被害は無いようです。



防獣トタンの解体撤収 2017.12.12

積雪時の 獣害対策の難しさ

根雪になったのは12月12日から、昨シーズンの1月11日からと比べて、ひと月早い雪化粧となりました。週間予報でしばらく雪マークが続くことを確認し、12月16日に湿原の防獣ネットやトタンを撤去して



日別最大積雪量の推移 (柳ヶ瀬)



地面の露出が増えだした湿原 2017.12.25

雪化粧の森に 思うこと

雪はが降った後の森の観察で、楽しみの一つといえば動物の足跡観察です。普段はほとんど姿を見ることができない森の動物たちですが、残された足跡から活発に活動していることが推察されます。タヌキやキツネはもちろん、相変わらずシカの足跡は多いですが、今年はあまりウサギの足跡を見かけません。全く見かけないということではありませんが、頻度は少ないように思います。

このことが下層植生の衰退と関連があるのか気になるところです。なぜそう思うかといえば、去年はウグイスの囀りも少ないように感じたからです。ウグイスは藪を好む鳥とされています。ここ数年でササ藪は目に見えて急激に減少しました。また落葉広葉木の更新も、間伐などで林床に日が入るようになった後でも生育は好ましくはありません。天然更新試験地の観察経過で明らかのように、防獣ネット無しではこれらの木は殆ど育ちません。常緑樹のアカマツやヒサカキ、ソヨゴ、アカガシなどは食害を免れて生育しています。しか



以前は雪が降った後、このようなノウサギの足跡がよく見られた 2013.1.16

し、残った藪が常緑樹だけではウグイスやウサギにとって、十分ではないのかもしれませんが。

多様な下層植生の衰退した状態が恒常化し、藪を好む生き物にジワリジワリと影響を及ぼし、生物多様性の豊かさの衰退に繋がっているのではないかと懸念しています。そうした危機の目で足跡を観察しています。

積雪具合の見極め

冬が峠を越えて雪解けが進むと、防獣ネットの再設置をしなければいけません。この作業は完全に雪

が消えてからではシカに進入されてしまうので意味がなく、まだ数十センチ雪に埋もれている時期にネットを掘り出して行きます。つまり、ネットの長さだけ延々と除雪を行う、とても重労働な作業です。ここ数年ネットの設置範囲が随分拡大したので、作業には多くの人手間が必要です。今年は雪の積もり具合が中途半端ですが、早まって再設置をすると、遅くから大雪が降って設備が破損することもあり、作業日や動員のタイミングの見極めがとても難しく、悩ましい作業です。

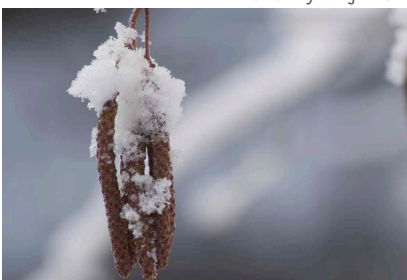
←ここ一ヶ月の 活動や森の様子↓



県協働事業 アカガシ100本伐倒完了 12.24
Photo by Fujimoto



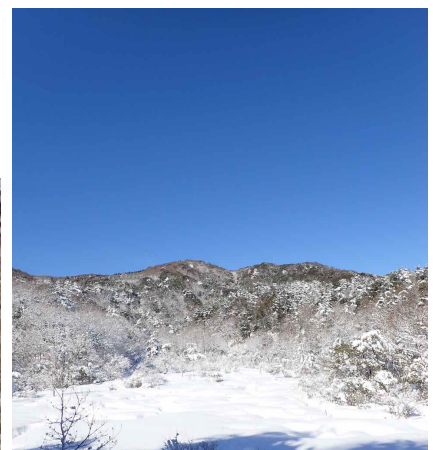
南部湿原を横断するツキノワグマの足跡
約40m先で実物を目撃 12.28



雪の結晶を被ったサクラバハンノキ花序 1.10



ミヤマウメモドキ霧氷 1.18



青空に映える湿原の雪景色 1.11